

人文学部

心理・人間学プログラム

取得できる学位 ★学士（文学）

■ プログラムの概要と人材育成のねらい

本プログラムは、心理学と人間学（哲学・西洋哲学史、倫理学、宗教思想史、科学思想史、言語学）を学ぶ教育プログラムである。実験や調査などの実証的方法によって、人間の心の働きや行動を理解するとともに、原典文献を読み解くことをつうじて、哲学、宗教、科学、言語などに現れる人間性について理解を深めることができる。このプログラムは、人間が直面するさまざまな課題に対して、人間性の深い理解に裏づけられた客観的な分析と思考ができるような人材の育成をめざしており、心理専門職、研究職、教員（高校公民・中学社会）をはじめ、公務員や民間企業の職員など、幅広い領域での活躍が期待される。

■ プログラムの到達目標（期待される学修成果）

| 1 | 知識・理解

- a) 人間の心の働き・行動や、人間の知的営為・思想について、基本的な知識と理解をもつ。
- b) 心についての科学的アプローチを理解し、心理学の代表的な知見を説明することができる。
- c) 人間学分野の哲学・倫理学・宗教思想史・科学思想史・言語学について、その歴史を学び、理論を体得する。
- d) 人文科学分野の幅広い教養をもつ。
- e) 人文科学分野以外の分野の幅広い教養をもつ。

| 2 | 当該分野固有の能力

- a) 先行研究や原典文献を正確に読み、解釈することができる。
- b) 心の働きやその結果として現われる行動について、そのメカニズムやプロセスを論理的・分析的に説明することができる。
- c) 心理学の研究方法を習得し、倫理的な配慮を十分に踏まえた上で実験や調査をおこない、結果を分析して、報告書を作成することができる。
- d) 人間の精神活動としての哲学や倫理学、宗教、科学、言語などを考察して、そこに現われる人間性の本質を深く理解することができる。
- e) 人間学の諸分野に関して、文献解釈やデータ分析に基づいて、問題事象に即して思考し、それをみずから表現することができる。

| 3 | 汎用的能力

- a) 英語及びその他の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。
- b) 様々な状況や立場を想像しながら、どこに問題があるのかを見つけ出し、その問題の性質を明確に理解することができる。
- c) 問題の解決に向けて、情報を多角的に収集して分析し、効果的に活用することができる。
- d) 問題の解決に向けて、情報や知識を複眼的、論理的に構築することができる。
- e) 他者とのつながりを築き、互いを尊重しながら対話を営み、問題の解決に向けて協力することができる。
- f) 日本語や外国語、また適切なシンボルや手法を用いて、自らの考えを表現し、発信することができる。

| 4 | 態度・姿勢

- a) 人間、社会、文化に関わる諸問題に多角的・分析的にアプローチを試み、主体的に取り組むことができる。
- b) 社会のなりたちとその歴史を深く理解し、人類が生み出した文化に敬意を持ち、その価値を後世に正確に伝えることができる。
- c) 身近な課題の探究を通して、地域社会に貢献する。
- d) 異文化に対する理解を深め、調和ある国際社会の形成に貢献する。

■ プログラムの履修要件

- ・しっかりとした基礎学力と旺盛な学習意欲をもつこと。
- ・豊かな感性と強い関心をもって、学習にとりくむこと。
- ・基盤教養科目を幅広い分野から履修すること。
- ・心理学、哲学・西洋哲学史、倫理学、宗教思想史、科学思想史、言語学のいずれかに関心をもつとともに、心理・人間学入門A・Bを履修済みであることが望ましい。

■ カリキュラム立案と学修方法についての基本方針

- ・人文学部のプログラムとして、教養教育と専門教育の連携のうえに構築された学士課程教育のなかで、確かな専門知識と幅広い教養を涵養し、人文的实践知を育むことをめざして、カリキュラムを立案した。
- ・心理学的な実験や調査などの実証的方法の学習においては、その方法の妥当性吟味やデータ解析力を備えるばかりでなく適切な倫理的配慮ができるようになることを目指す。また、哲学、宗教、科学、言語などに現れる人間性について理解を深めるために、一定量の原典文献を正確に読み解けるようになることを目指す。また各専門科目は到達目標の（1）知識・理解、（2）当該分野固有の能力にとどまらず、（3）汎用的能力、（4）態度・姿勢をも視野に入れて学習を進められるように配慮されている。最終的な目標は、人間が直面するさまざまな課題に対して、人間性の深い理解に裏づけられた客観的な分析と思考ができるようになることである。